静岡薬剤耐性菌制御チーム　通報 81　　2021.4.15

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の発生を受けて

静岡県立静岡がんセンター　感染症内科　倉井華子

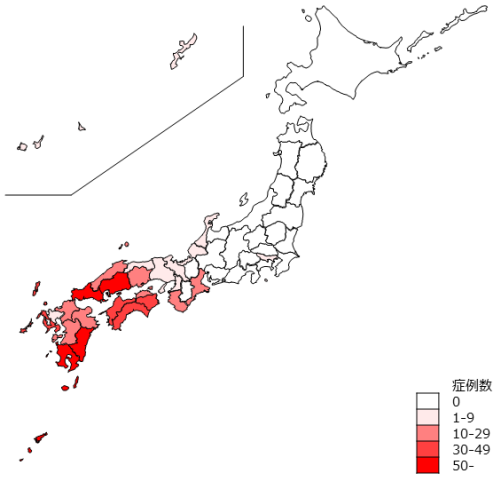
重症熱性血小板減少症候群（sever fever with thrombocytopenia syndrome：SFTS）はマダニが媒介するウイルス感染症の一つです。今までは西日本を中心に症例が報告されていましたが [1)]、2021 年 3 月、静岡県中部で初めて SFTS の症例が確認されました [2)]。幸い回復しておられます。昨年は猫の SFTS 症例が西部でも見つかり、県内広域に SFTS を保有するマダニや野生動物がいることが推測されます。

SFTS は 2011 年に中国で報告された比較的新しいウイルスです。国内では 2013 年に山口で初めて国内発生の症例が報告されました。それ以降、西日本を中心に各地で症例報告がされましたが、静岡県で見つかったのは初めてです。SFTS は多くのマダニ（フタトゲチマダニ、タカサゴキララマダニなど）が媒介することが知られていますが、シカや猫や犬、タヌキなどの動物の体液から感染する例もあります。マダニ曝露歴に加え、獣医や野生動物を扱う職種の方が発熱で来院された場合は本疾患も疑う必要があります。

臨床所見として、潜伏期間は 6~14 日（もっと短い報告もあり）で、発熱、頭痛、全身倦怠感、下痢や嘔吐等の消化器症状、意識障害等、リンパ節腫脹など様々な症状がみられます。血液検査で血小板減少や白血球減少、ALT、AST、LDH、CK の上昇がみられます。重症例では骨髄検査によりマクロファージによる血球貪食像（血球貪食症候群）の所見が認められることもあります。また他の発熱性疾患に比べ CRP が低いという報告もあります [3)]。壮年・高齢者で症状が重くなる傾向があるようです。病歴を聴取しなければ疑うことが難しい疾患ですが、動物との接触がある場合やマダニ曝露がある場合には本疾患も疑い最寄りの保健所に相談してください。

また、マダニ媒介感染症として日本紅斑熱も引き続き注意が必要です。病原体を持つマダニにかまれてから2～8日後に高熱や発疹が現れ、重症例では多臓器不全を起こします。刺し口（ダニの刺咬による痂皮）を認める症例が多く、ダニ曝露歴や腋窩、鼠径部などを注意して観察することが重要です。早期に診断・治療すれば致命率1%を切る疾患ですが、発症から時間がたつと死亡率が上がります。ここ数年、静岡県では日本紅斑熱の症例が増加しています。日本紅斑熱は今まで東部に限られていましたが、西部でも症例が出ています。野外に出る場合には虫忌避剤や長袖長ズボンなど虫に刺されない対策をご指導ください。

2018 年 10 月 通報 23（https://hamamatsushi-naika.com/files/23.pdf）、2020 年 7 月 通報 63（https://hamamatsushi-naika.com/files/63.pdf）ではマダニによる日本紅斑熱について、情報共有をさせていただきましたので、合わせてご覧ください



届出都道府県	症例数
東京都	1
石川県	2
福井県	2
三重県	12
京都府	8
大阪府	2
兵庫県	4
和歌山県	24
鳥取県	2
島根県	23
岡山県	17
広島県	53
山口県	54
徳島県	34
香川県	12
愛媛県	33
高知県	49
福岡県	20
佐賀県	9
長崎県	40
熊本県	21
大分県	26
宮崎県	74
鹿児島県	50
沖縄県	1

図 1　SFTS 症例の届出地域 [1)]

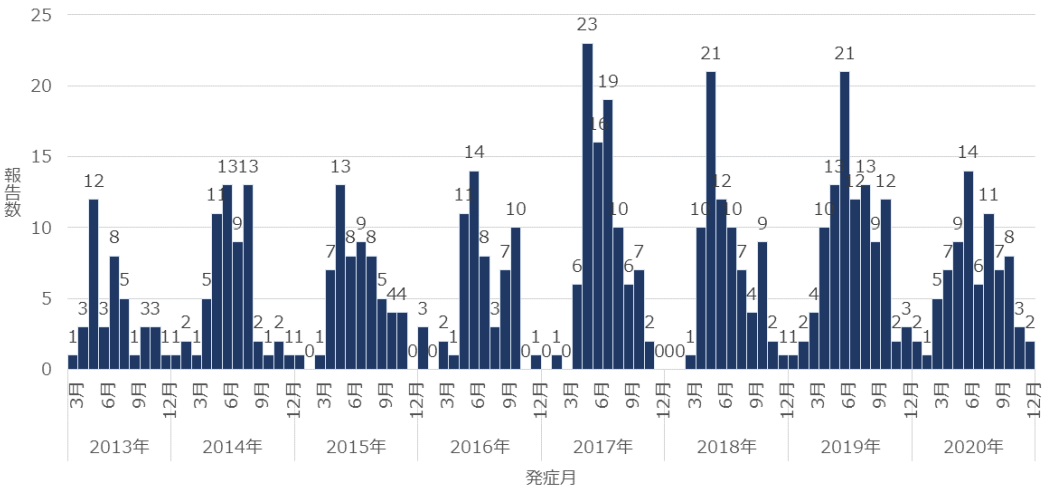


図 2　2013 年 3 月 4 日以降に届出られた SFTS の発症時期 [1)]
(n=565, 2020 年 12 月 30 日現在： 4 類感染症指定以前の発症例 8 例を除く)

資料

1)　重症熱性血小板減少症候群(SFTS). 国立感染症研究所 2020 年 12 月 30 日
https://www.niid.go.jp/niid/ja/sfts/3143-sfts.html
2) http://www.pref.shizuoka.jp/kousei/ko-510/seiei/documents/presssfts.pdf
3) Kato H, Yamagishi T, Shimada T, et al: Epidemiological and Clinical Features of Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome in Japan, 2013-2014. PLoS One. 2016 Oct 24; 11(10): e0165207.